



学校だより 9月号

横浜市立日吉南小学校

令和5年8月31日

さらに 前進！ エンジョイ・ひよみな

校長 山中 真紀子

「言ったことをやらせるだけでは、選手たちが野球嫌いになってしまう。」

「最後は自分で考える。自分で考えることが一番難しくて、一番面白い。」

これら『エンジョイ・ベースボール』の言葉と、夏休み明けの学校を重ねながら出勤すると、教職員が子どもたちを迎える準備をしていました。地元の学校が高校野球優勝校ということで、テレビには日吉の町が映し出され、活気と賑わいを感じさせていました。日吉南小の職員室にも活気が戻り、ここに子どもたちの笑顔が加われば、日吉南小の完成、そしてスタートです。

地域の夏

子どもたちのいない学校はさみしく、地域の行事で子どもたちと会えるのが楽しみでもありました。この夏は地域の様々な行事（日吉本町西町会盆踊り、箕輪町町内会盆踊り、日吉本町東町会盆踊り、ペットボトルロケット大会、南日吉保育園参観など）に教職員・PTA 役員の皆様と参加させていただきました。数年ぶりに開かれる行事の賑わいに圧倒され、「我がまち」「地域の子どもたち」への愛を感じ、ありがたい気持ちでいっぱいになりました。

この後も地域では様々な行事が計画されています。子どもたちがまちを知り成長できる良い機会でもあります。学校でも声掛けをしていますので、ぜひご家族でも話題にしてみてください。

夏休みの学校

学校ホームページでもお伝えしましたが、特別支援研修、不審者対応安全研修を行い、職員作業では、ワックスがけ、運動会倉庫整理、特別支援環境整備などに取り組みました。また、

各学年では、タブレット端末の活用や持ち帰りについて検討したり、児童一人ひとりの学習状況の確認を行ったりしました。一人で行うことではかどるものもありますが、多くの人数や担当チームで行うことよさを生かし、夏休みの時間を有意義に使うことができました。

また、教育委員会主催の研修や他校へ行っての研究会、これからの横浜の教育の在り方などについても学習する機会をもつことができました。社会からは、教職員一人ひとりが「学び続ける教師であること」が求められています。新しい知識や社会の流れにあった教育について、自ら研修の場を広げる教師が日吉南小にはいます。ここでの教師の学びが、日吉南を支え、教師の自信となり、子どもたちに還元されていき、「前へ進む」日吉南小学校を作るのです。

夏休みを終えて

桜門の桜も伐採を終え、空が広く見えることにさみしさも感じますが、そこから見える青空は、何か可能性を感じさせてくれるようでもあります。PTA ブログでもお伝えしていましたソーラン節長半纏は、桜門の桜を取り入れたデザインになりました。皆様のお力による資源回収奨励金とふるさと納税による寄付金でソーラン節長半纏とはちまきを制作させていただきましたこと、感謝いたします。

コロナ等の感染状況によりますが、9月中頃より子どもたちはグループでの給食をスタートします。みんなが気持ちよく楽しい会食ができるよう、学年に応じた声掛けや指導を行ってまいります。

『エンジョイ・ひよみな』を目指して、教職員一同、子どもたちを支援してまいります。引き続きご協力をお願いいたします。